

Wri NewsLetter 36

MO

1977年7月15日 戦争抵抗者インターナショナル日本部 大阪府阿倍野区加田2-12-2

東京→広島 平和行進について

WRメンバー・支持者へ 特に参加を訴える

—まず「ナニ、平和行進。そんな、日共などの刃付き行軍にはんか構ってられるか」と言うまに、どうか、終りまでよんで下さい。何せ、WRIがそれにかわろうとして、知つて頂くために—

平和行進は、例年、原水協が主催して行われてきます。それに参加するのは、だから原水協系の団体だけで、それ以外の有志、市民などの参加は見当りません。

ところで、ことしの平和行進は、よくみてみると、ごく少人数ながら、個人あるいは小グループなどが、例年先頭に立つ日本山妙法寺の大鼓のあとに「しよ」に大鼓をうちながら、又あるいはウリのように横断幕や異色のプラカードなどをぶらさげて、赤旗に同じゼッケンといった原水協の前を「しよ」に歩いています。さらにその小グループの中にまじって、二十人あまり外人が加わり、国際的なはなやかさです。この外人たちは、昨年アメリカで行われた「大種橋断行進」に

参加した人たちで、日本山妙法寺の叩きかけにこたえ、大出陣をこぞた日米両平和行進をつなぐものとしてやってきた人たちです。そのなかにWRIの各地オフィスのスタッフ、ナタリー、ステイヴ、チアツプル、ジエディム、エドなどの仲間がいます。

そして平和行進が昨年まで原水協系一色で何から何まで原水協中央の指令で行進が行われていたことを思えば、このささやかな変化でも、奥底とても大へんなこと、大異変なのです。それは、一歩、行進の内都へはいつてみると、びつくりあきれかえつてしまふだけではすまされぬ、いろいろの具体的な問題が、例えばウリのぼくらの参加ひとつに對しても、トラブルとして出てくることで、よく判ります。そのことの正しい処理と解消を通じてしか、いま叫ばれている原水禁運断りというものを、世界大会の統一など到底ありえない。この平和行進が、その一歩の行進において具体的に統一の奥の内幕をつくりだしていくこと、その先駆によって、はじめて統一

平和行進に連帯の希望がある仲間からの手紙等の処理が二十日何枚も残りました。しぼらくあまし下さい

の可能性を示すまい。いますこぶる重大な意味がかかっています。そのことを、もうすこしくみしく述べ、るために、ごく簡単に、私見を交えないよう客観的に原水禁運動がどんな歴史のなかで生れ、発展していったか、そして今は—について、のべておきたいと思ひます。

① いまから二十四年前（一九五四年三月）ピキニマリ刀の水爆実験がおこなわれました。それを機会に原水爆禁止の声は日本中にひろがり、三千万人（日本人の「三弱」）がそのための署名をしました。そして日本中の人たち全ての心をあつめて原水爆禁止日本協議会が発足しました。

② 一九五五年、第一回世界大会が広島で一万人の各府県代表及び世界各国代表をあつめてひろかれ、以降毎年八月六日、九日を中心に行われることになりました。

③ 一九五七年第三回大会が東京でひらかれた時、日本山妙法寺の故西本あつしさんが広島から東京へと、たった一人で行進を初めました。それを知ったWRJ日本の龍武一郎君は、広島へかけつけ、岡山県境で追いついて、西本さんの行進を助けました。この平和行進は沿道の人たちを大きく動かし、自発的に半日・一日あるいは何日も一緒に歩く人たちが出来て、みるみる大きくふくれあがり、原水協は、途中から公式にその

平和行進を支持することになりました。それ以後、平和行進は毎年原水協が主催する重要な行事の一つとなりました。そして世界大会をもりあげる大きな力となりました。

④ 原水協は、全国民の願いであり祈りであるため、その当初、あらゆる団体は我おくれじとすすんで原水協に加盟し、日本全国各地に地域原水協が生れました。しかし、それ故に原水協は集合バスのように、自民党から共産党まで様々な立場と考えが入りまじってしまいました。その中でもっとも精神的に又献身的に活動した共産党系の人々は、原水協内部、とくに事務局で大きな勢力を占めるようになりました。そのような内容から、やがて原水協内部では、いろいろなトラブル・利害関係・勢力関係のための対立が生れてきました。

⑤ まず原水禁運動から保守系勢力の人たちが脱退しはじめました。運動が左翼に利用されているという理由でした。しかしそれで終るのではなく原水協内部は、共産党系としばしば立場や意見を異にする社会党系との対立が次第に明らかになってきました。そして、無党派や中立系の人たちもその対立にまきこまれるということが出てきました。

⑥ 第九回大会（一九六三年）で「中・ソ核実験に対する見解」で、共産党系と社会党系の組織は大きく対立し、ついにそれを理由として分裂がおこりました。

こうして原水協（共産党系と残った一部中立系）と原水禁（社会党・総評系）の現在のようになつた二つの組織が出てくることになつたのです。

⑦以来十四年間、日本では二つの原水禁運動が、双方まったく関係なく行なわれ、八月にそれぞれ原水禁世界大会がひらかれてきたのです。

⑧平和行進は、原水協によってそれ以後も毎年つづけられてきました。が、次第に当初の精神が忘れられ、形式化していったと云えるでしょう。例えば「通し行進者」は原水協が認定したものに限られ、各地区原水協は、各地区を請って通し行進者の世話をし、次の原水協へバトンタッチする。だから行進者本人の意志とは別に、地区原水協の都合で人家のない所は車に乗せられるというふうなことです。

こうして平和行進は、地区の原水協関係者だけが、通し行進者を迎えて、その地区を形式的に送迎して歩くだけのものになり、その他のクルーフや一般市民の参加は、全くないという形になつてしまいました。

⑨ところで今年原水協では、はじめ平和行進を実施しない方針だったときいています。一方、昨年の米大陸横断行進に参加した日本山妙法寺「日本の平和行進への呼びかけ」に心じて米人たちがやがて来日するといふことになっていました。

そして四月二十八日、日本山妙法寺山王藤井日達聖人の「歩いて下さい」という法話に感動した、東京中央

線沿線のほびつと村の人達が（東京―広島平和行進会ピースキャラバン仏さまの小供たちニエース向参照）自分自身の発言と責任で、歩きつという事になったのです。そして「ほら貝」「ミルクウチ」などのクルーフがその行進連絡所となり、ニエースを出しました。

（私たちWRIもまた、この行進参加と協力を呼びかけられ、一方、見送組織のアメリカWRILの仲間たちがこのために来日することを祈りました）

こうして、五月十四日、東京夢の島を出発し、川崎―横浜と歩き出したときの行進者は日本山妙法寺の僧達と一見異様な風合いの若者たち十数人だけだったときいています。

⑩行進出発数日後の五月十九日、「原水協」と「原水禁」のトップ会談が行われました。新聞報道などによると、そこで統一への努力が合意され、六月には統一実行委が設置され、中央から地方へといきまの方針で世界大会を一緒にやることでの協力がすめられているということでした。もっともそれだけでは永年山積した両者間の対立問題は解決したわけではないらしく、私たちにはわからない様々なかけひきが行われていることも報じられています。が、ともかく、大きく統一へと大勢が動き出したことは明らかであり、世界大会はその方針ですすめられていることもまちがいありません。

以上が今までの経緯です。

このように統一に向つてすすむ原水爆禁止運動の大きな胎動のなかで、いま平和行進は、一党一派に偏しない、真に平和を祈り願うものなら誰でも参加できるという一歩で、それ自体で統一を具現するものとして、きわめて重要な意味と役割をも持つものとなつてきたといえるであらう。その意味で、あとから出た統一実行委員会がこの平和行進を当然自分たちの運動として把握したこともまた従来の歴史からして当然のことかもしれません。

ウリの立場

私たちWR工(ウリ)の平和行進参加は、行進団先乗りの世話役宮田さん(六月末ウリ事務所)にきて、大阪で観望集会をもちたい。オメガが宮田さんと相談してよろしくという協力依頼があつて、急にはつきりしました。行進がほとんど誰にも知られていないので、すぐその日曜さニユースにし、約千枚を各所に発送し、すでに奈良に入つていたので奈良方面へは手紙しました。それで友人が参加したはずで、(その人の感想はなんかととも疎外されてる感じで歩きにくかつた)後からついて来マツて歩いた(とひこと)でして、

つまりウリは高初(たかはつ)の陣びかけの「あなたもこの平和行進に参加して歩きませんか」そして日達聖人の「どうが、わづかなくあつても、それは仕様ありませぬ」ということばに呼応して、私たちの個人一人一人がその責任で一しよに歩く、という立場で、さらに宮田さん

の誘の途中では野米を拾いパンクズをたべるなどして歩くということに感奮してよし、とばかりに一人一人がうづき出したのです。そして今日まで十日間、広島まで歩くり子さんを中心として延五十人ほどが連日、多いときは七、八人、時には乳母車も交えて、時にはひとりでビラをまきながら、参加してきました。

ところが、行進に参加してすぐ、いろんな人なことがおこりました。つまり行進は、地域参加者は大阪では原水爆関係ばかりで、ウリだけがそうではないという状況でした。それで七日夜にまたま、日本山大阪生帰へきた原水爆のWさんに、ぜひ参加して本場に統一ということ、行進がいろんな団体、個人、ひいては、きいてもらつてほしいというので、はなはだ迷惑な、おかしな感じ、というところでした。レガもその統一実行委員と名のる人たちは地元の原水爆の人たちでいづれも中央の指示でいっているようなのです。これでは昨までの平和行進と同じです。もしウリが行進から抜ければ、それこそ行進は、誰でも参加できることを示す形になつてしまふでしょう。その意味でウリはあえて行進に参加しつづけて